

議 会 広 報 特 別 委 員 会

日 時	令和 7年12月19日 (金) 閉会中	9時55分 開会 11時29分 閉会
場 所	相良庁舎 4階 第3会議室	
出席議員	(委員長) 8番 絹村智昭	(副委員長) 3番 石山和生
	7番 鈴木長馬	6番 菅沼保弘
	2番 篠崎朗子	1番 中山尚大
欠席議員		
法第105条出席		
事務局	書記 増田 奈菜子	書記 中田 綾
説明員		

署名 _____ 議会広報特別委員長

開会の宣告

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それでは、議会広報特別委員会を始めさせていただきます。

2 事件 (1) 牧之原市議会だより「かけはし」第81号について

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

先ほどの本会議のほう、お疲れさまでした。では早速ですが、始めさせていただきます。事件に入っていきます。(1)の牧之原市議会だより「かけはし」第81号について、ページ構成の決定について協議していきましょう。

そういう中で、今回ページ構成ということで、補正予算連合審査会のほうの案件を出させていただきました。そういう中で上がってきているんですけども、その中から5件でしたか。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

皆様、資料の補正予算連合審査質疑箇所をお開きください。

皆様に事前にアンケートを取らせていただきまして、賛成者が右の数字ですね、書かれております。紫色が5人、赤色が6人、黄色が4人、緑が2人、青色が1人と、色分けをさせていただいております。この中から多いもの順に選ばせていただいて、赤紫黄色の通し番号1番、それから通し番号3番、通し番号5番については採用してもよいのかなと考えています。

なので、あと緑色、賛成者が2人の質疑の中から2件、取り上げたい質疑を選んでいただいて掲出してはどうかと考えているんですが、いかがでしょうか。

[「異議なし」と言う者あり]

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そういうことで、緑のところからあと2件でいいですよ、あと2件を今日この場で決めたいと思いますので。

1人2回手を挙げるという形で、どれを掲載するのかということで、通し番号2番、4番、6番、8番あるので、1人2回ということで挙手のほうをお願いします。

少し早いとあれなので、1分ぐらいちょっと。

一応1分ぐらいたちましたので、それでは挙手をお願いいたします。

まず、2番から。2番を上げたほうがいい方、挙手をお願いします。続きまして、4番を上げたらどうだ。続いて、6番はいかがでしょう。1人2回なので。8番。

ということで、決まりました。勘定した中で。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

今、多数決を取らせていただきまして、多かったのが、通し番号4番、児童措置費。そして2ページ目に移りまして、通し番号の8番の消防施設災害復旧費になります。

なので、まとめますと、1番、3番、4番、5番、8番を通告質疑の案件として、広報のほうに掲出できればと思っておりますが、よろしいですか。

[「異議なし」と言う者あり]

○事務局書記（増田奈菜子君）

ありがとうございます。では、すみません、皆さんの中で、どの記事をつくるのかというのを今から割り当てていただくんですけれども、委員長のほうで決めていただいてもよろしいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

もう一度ナンバーで。1番、3番、4番、5番、8番。それでは順番で、今まで以前、右回りとか左回りとか順番で回してやってくれているので、まず1番は自分からやらせていただきます。副委員長、3番ということで。それで菅沼さん、4番。5番が中山さん、8番が篠崎さん。

5件なので、鈴木委員はまた一般質問から回る感じなのかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ちょっと概要のほうを一つ、事務局。要は記事。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

この後、皆様に討論であったりとか通告質疑であったりとか、一般質問の記事を12月24日ないし12月23日までに提出していただくかと思っております。これについてチェックをしていただくのが、また適宜チェックしていただいたりするかなというところです。そのほか今、決めさせていただいた補正予算連合審査会の質疑については、この後、会議録が作成されましたら、それぞれに、その会議録の質疑の部分をお渡しさせていただきますので、それを見て要約をしていただいて、すみません、今、1人何字ぐらいだったか一つ何字ぐらいだったかというのが思い出せなくて申し訳ないんですけれども、また記事をつくっていただくという形になります。

先ほど会議外でもちょっとお伝えしましたが、一つの質疑、議案に対して質疑が複数ある場合は、どなたかがやった質疑を1個ピックアップして記事をつくっていただければ大丈夫です。

なので、今回で言いますと、中山委員が担当される災害救助費など、篠崎委員、石山委員、木村委員が3人質疑をしておりますが、この中から約1名の質疑をピックアップして記事をつくっていただければ大丈夫です。

○事務局書記（中田 綾君）

補正予算の原稿の依頼のほうになるんですけれども、この後、LINE WORKSで広報のLINEのほうに全体で送らせていただきます。おおよそ、原稿の締切が第4回目の委員会の少し前ぐらいになりますので、恐らく1月の中旬頃になるかなと思われま。今ちょっと字数を見たんですけれども、問いと答えを合わせて100字程度となっております。

以上です。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

会議録が来次第、またしっかりと締切とかそういうのを載ってきますので、期限厳守で

ひとつ、よろしくお願ひします。

ほかに何か。

中山委員。

○（中山尚大君）

もう一度ごめんなさい、確認だけさせていただきます。会議録がいつ送られてくるとおっしゃいましたでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

会議録なんですけれども、会議があった日からおよそ2週間ほどで業者から送られてくるようになっているので、会議録自体が送られてくるのが年明けになってしまうかなど。なので、そこから第4回目の委員会が、失礼します、確認させていただきます。

失礼しました。会議録が来るのはおよそ12月26日頃で、そこから皆様に配布をさせていただきまして、原稿の提出締切りが第4回目の委員会である1月19日を予定しております。確認があるのですみません、失礼しました。締切、19日前ですね。ちょっとここは設定次第になるんですけど、13日か14日か、それくらいを目安にしております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

以上のスケジュールでということで、ちゃんと日時の期限載ってきますので、よろしくお願ひいたします。

（1）のページ構成に関してはいいですかね。

〔「なし」と言う者あり〕

2 事件 （2） 牧之原市議会だより「かけはし」紙面のリニューアルについて

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

（2）の牧之原市議会。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

ページ構成の中で、特集記事を何にするかを前回決めていなかったと思うので、そちらを決めていただければと思います。

資料ページ割（第81号）令和7年12月19日議会広報特別委員会、横長の資料になっております、こちらをご覧ください。

特集記事（案）と書いた黄色の部分があるかと思ひます。そちらの特集記事が載っておりまして、特集記事にはいかがかと事務局側で思った内容をこちらに書かせていただいております。赤で色が塗ってある字の部分に関しては、前は書いてなかったんですけども、今回の委員会に当たって増やしたものになります。

それとは別で参考資料となりまして、同じフォルダの中に入っている市民投書という資料があるかと思ひます。こちらが12月10日、12月11日に議員全員協議会をやったと思ひますが、その前日に投書されたものになります。この竜巻の質疑であったり全協の内容について、なるべく早く議会だよりに載せていただきたいということで投書をいただいております。

ますので、なるべくこの意見を反映させて特集記事のほうを組んでいきたいと思っております。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

説明ありがとうございます。

それこそ今回の要望書について、前回全協でやりました台風15号の災害についてをページに載せる考えでいますが、その辺は大丈夫でしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そこは載せるという形で、あとは今回、ここの赤いところにありますけど、議会だより市民アンケートについてとあるんですけど、ここの部分はアンケートというのを、これを載せていくのかというところなんですけど、皆様のご意見を聞きたいと思います。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

やっぱり何か構成を変えるとかとなったときに、その効果というのはちょっと知りたいなという部分があるので、トライ・アンド・エラーの観点で考えれば、一度、割と近いうちにアンケートを取って、またそれによってどう変わったかという検証は必要かなと思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ほかにはいかがでしょうか。

副委員長。

○（石山和生君）

やるのはすごくいいと思っています。ただ、アンケートだけで1ページ取るかどうかはどうかと思って。広報特別委員会紹介、今後の抱負のところと合わさって、アンケート、QRですよ、基本的に。なので、1ページ取ってもいいかもしれないですけど、ぐらいの感じですね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

すみません、構成がまだ分からなかったもので、1ページとかじゃないですけど、市民の方々が何か反応できる、リアクションできるような媒体は必ず載せたいなというだけの意見なので、お願いします。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

ごめんなさい、この中に入れてはいなかったんですけども、先日の議員全員協議会、12月17日に行った委員会の後に、絹村委員長のほうから、今回の竜巻の経過に関して、何か記事を掲出してはどうかという意見があったかと思っています。この中には入っていないんですけども。

○（石山和生君）

それは全員協議会じゃないんですか。

○事務局書記（増田奈菜子君）

一緒にするかどうか次第ですね。今、私が想定しているのが見開きのこの2ページで、議員全員協議会で、その隣のページに要望書は載せないなと思っているので、この見開きの部分に経過を載せるか。ただ、経過を載せてしまうと、例えばA4の半分のページがその経過などで埋まってしまうので、全員協議会の内容という1ページと半分くらいとなりますが、それで足りると皆様が判断するのであれば、見開き2ページに経過、それから全員協議会の内容とさせていただこうかと思えます。ただ、もっと全員協議会の内容をたくさん入れたいということであれば、2ページ使って要望書、もう一ページを経過でもいいですし、そこは皆様の裁量次第かなと思っています。

○（菅沼保弘君）

災害の経過というのが、皆さんあまりよく分かっていないかもしれないので、その点を先に載せて、その後、議会の内容を入れていくとか、やっではどうかなと思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

その災害の経過というのは、今回の全員協議会の中でも挙がっていた、一般質問取りやめみたいところなのか、それとも9月5日からの発生の部分からのことをおっしゃっているのか、どちらになりますかね。

○（菅沼保弘君）

発生からずっとの経過で、9月5日から。今回の議会の中の説明資料の中にあっただと思うんですけども、それを主にして、その後、間に議会がこういう話があったよというふうに時系列で追えるようにしてみたらいいかなと思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

となると、今の話だと全部で3ページ、経過と全員協議会と要望書という理解で合っていますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分から。それも織り込みたいところなんですけど、やっぱり今回、市民への説明という部分で、議長からの説明文というのにも必要になってくるのかなと自分は思っているんですけど、そこら辺は自分はもしここで決まるようだったら、ちゃんと議長のほうに説明文の、こういう経緯でという、その構成、協議会の流れの中の構成と、あと、議長からどういう説明を伺う。重なっちゃっていると、またちょっとあれなので、そこら辺もまた正副でというか、この場で決めたほうがいいか。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

議長の今回に関しての釈明ではないですが、説明文。どうしてこのような通知を出したかということに対してコメントがほしいということであれば、それも考慮した上で、載せるか載せないをここで話し合っ、ページの構成を決めたほうがよいのかなと思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

議長にページをつくってもらって、その経緯とかを書いてもらう中に、さっきの一番最初のページですね、経緯のところに、今言っていたような議長なりの見解みたいなのを話すという感じですか。今の話だと二つ、4ページつくるということ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そうすると、ほかの部分が構成の中でちょっとずれていくというのがある。

○（石山和生君）

1ページ目に、どっちもいけるかなとは思ったけど。

○事務局書記（増田奈菜子君）

その前に載せるかどうかがかかっていると思います。議長のコメントをやっぱりほしいと、この委員会でするのか、それとも不要とするのか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

それに関してはやはり私の意見を述べさせていただくと、あったほうがいいなとは思いますが。それはやはり、市民投書にもありますし、他の議員からもそういった声は出ています。また、市民からの声ということでも私は聞いております。

あともう一点、ちょっと確認だけしたいんですけども、我々が議長に釈明を求めるといふふうに書面つくって行って、そこで議長は釈明してくれるという前提で話進めちゃっていいんですか。

○（石山和生君）

釈明という言葉はちょっと違うと思う。

○事務局書記（増田奈菜子君）

釈明ではありませんが、言いようにもよりますが、議長に今回の件に関して、どうしてこんなことが起きたのか説明文をお願いしますという言い方はできると思います。一度、依頼をして、もし何かあるようであれば断られるか、ちょっとそこは分からないんですが、一旦、議会広報特別委員会で決めたと。委員会で決めたとすれば、むげにはしないと思うので、載せるかどうかというところをまず決めたいかなと思います。

○（石山和生君）

取りあえず、そういう内容を載せるのは賛成なんですけど、どうしてこうなったかの、言い方はちょっと気をつけたほうが。どっちがどっちというのもまだ何か。経緯、新聞報道の経緯とか、どっちにでも取れるような感じで、もし委員会として出すのであれば、そういうふうにしておいたほうがいいんじゃないかなと。

新聞報道の経緯なのか、臨時で全員協議会を開いた経緯なのか、ちょっと分からないですけど。臨時で全員協議会はちょっと違うか。報道かな、報道関連の経緯についてのほうが、中立的な感じはするかなと思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

その新聞内容とともに議長が言ったことは、取りあえず、ホームページに載るんですよ。載っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

一応、議長とかが言うには、全員協議会で話したのが動画に載っているという状況になっております。

○（菅沼保弘君）

その内容というのは公になってますので、議長の言葉をそのまま入れればいいかなと思ったんですけど。あまり小細工せずに。素直にその表現をして、皆さんがどう思っているかということだけなので、市民に対して意見を求めるとかそういうことじゃないんですよ。だから、そのままの言葉をやって、Q & Aに何かちょっと入れるかどうかという話ですよ。そのぐらいのほうが、誰かを責めるわけじゃないので。こういう表現をしたほうがいって、素直な表現のほうがいいかなと思ったんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

今のは、なので全協で言ったことを原稿として、我々が編集をするということですよ。それは一理あるとは思いますが。ただ、その見解がそもそもおかしいとなってくると、また話がややこしくはなってくるんですけど。そこをどう、一応全協で言ったことを原稿、それを編集するという形なのか、もうちょっと大枠の話をされているのか、僕は今の話でも別に、方法としては、新たな記事を作成してもらうのであれば、またちょっと話は違うし、そこをまとめるという形であれば、それはそれでいいような気もするので、あとはこの委員会のメンバーがどう考えるかです。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

ごめんなさい、改めて今聞いていて思ったのが、議長に何かしらの今回の件で説明をという話だったと思うんですね、絹村委員長がおっしゃったのは。その説明というのが、17日のほうの全協を聞いている感じだと、どうしてこんなことが起こってしまったのか、そもそも取下げを依頼したことに対する説明をという内容だったと思うんですね。なので、この件に関して意見をまとめる。どうしてそのような取下げという選択肢を取ったのかの説明を載せるということでもいいのか、それとも新聞報道がされてしまった理由についてなのかで、書き方だったりとかまとめ方が違ってくると思ったので、皆さんが、議長に対してどんなことの説明があったら市民の方が納得するかなというのを一旦考えて、どちらかに振ったほうがいいのか。記事の内容。と思ったんですが。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

議会広報紙という観点で言えば、議長を責めるような構図というのは若干どうなのかな

というのは思いますね。ただ、難しいんですけど、まとまっているかと言われたら、難しいところもあるんですよ。

なので、現時点で、そもそも取下げという定義もちょっと違うらしい、見解に相違があるらしくて。だから、なぜ取り下げた、いや取下げという概念とはちょっと違うんじゃないという意見もあるらしいんですよ。

なので、そもそも、まだ受付はもちろんして、受付をして、まだ受理の前の誤字脱字とがありますよね、提出した後に。あの段階で、結局出されはしなかったという見解もあったりだとか、いろいろ、そもそも論みたいところが、ずれがまだあるような感じがして。なので、そこでなぜ取下げということをしたんですかというの、また難しいような気もするし。何か難しい。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

要は取下げとかその部分でなくて、報道されて市民がちょっと不安に思われたその部分の、本当は釈明のところは一応説明という部分で、議長からいただければなというところ。

こちらで依頼することはできるし、恐らく委員会の総意だったらコメントを入れられるかと思うので、そこを少しでも市民が。はっきり言って、議長は今、市民からも結構責められているところだと思うんですよ。それを少しでも解消するためにもやっていってほしいなというところですよ。

副委員長。

○（石山和生君）

今の話で、やっぱり報道を受けてのコメントはほしいですよ。別に正直、みんな思いは一緒で、災害に対する対応を強化しようと思った。それは全体でやったほうがいいと思った議長と、一般質問でも個々でもやったほうがいいと思った議員、そこはちょっと分かれるんですけど、思いとしては割とちゃんと前に進めようという思いからやられているというのは、それはそうだと思うので、そういうコメント、分からないけど、後退させようと思ってやってたわけじゃないとかというのは、コメントとして載せてもらってほしいなという気もしますけどね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

分かりました。では、今の意見をお聞きしましてまとめると、報道の不安を取り除く、報道に対する市民の不安だったりとかというのをなくすためのものだよということであるので、それであれば議長からのコメントではなく、あくまでも牧之原市議会としてのコメントということで、17日の全協の内容だったりとかを含めて、議会としてこういう理由があって今回このような取下げという選択肢を取りましたよ。ただ、要望書も出しましたし、これからも議会全体として復旧復興に向けて取り組んでいきますし、資するところで災害対応も含めて、市政に対して一般質問をしたりとか、市政を資するというのもありますよという内容の議会からのコメントを作成して、我々が事務局側で。それをまたチェックしていただけたらどうかなと思ったんですけども、いかがですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

やはり報道に対しての市民の方々の疑問というか、それを払拭をするに当たって、今の構造というのは私たちが議員だから納得する部分でもあるので、市民感情からしてみたら、やっぱり経緯ですとか、何でというところをやっぱり書いていったほうがいいんじゃないかなとは思いますが、すけれども。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

今の意見と同じなんですけど、あそこで釈明してビデオに載っています。それちょっと違うよねという印象がちょっとまだ新聞にも出ているんですよね。それに対するコメントを議長が出すべきだと思うので、議会が出すべきじゃないんじゃないかなと。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

ほぼ内容、重複してしまったら恐縮なんですけど、議会内で意見が割れているので、まず、まとめ上げ切れるのかという点で、多分ちょっと難しくて、編集の裁量で大分いろんな切り取り方というか、意見の方向性の持っていき方とかできてしまうので、前回の全協をまとめるのは、実際にやられて上がってきたものがどうなるかによるかもしれないですけど、かなり難しいのではないかなと、私は予想はしております。

あとは、これは市民からの声の体感でありますけど、前回の全協のビデオは正直評判があまりよくないです。なので、あれよりは新しい意見のほうがいいのかなとは思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

なので、新聞報道についてのコメントを新たにもらう、追加するなら4分の1ページぐらいですか。どういう形態になるか分からないんですけど、僕は議長からのコメントがあってもいいとは思いますが、どういう立てつけに。

経緯の説明も議長側に書いてもらうのか、それは全員協議会のものを取ってくるのか、ここが結局。そこをどうするのかという。議長にまずは記事を書いてもらって、1ページ。という話なのか、そこも結構難しい。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

議長に対しては、私も常に中立な立場ではいたないので、議長が思った、市民に対してこのような記事が載ってしまいましたけれども、こういう見解でこういうふうに判断しましたというようなことを、一番最初の記事、2番目の記事というところを全部踏まえて言っただけであれば、市民の皆様も分かってくさるんじゃないかなと思うので、そういう視点でいけたらいいなと思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

全体的な話を聞くと、議長のコメントは必要だよというところになるので、一応もらうという形でよろしいでしょうか。

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

今のご意見をお聞きしまして、議会としてではなく議長の意見で、かつその意見の内容については、報道に載った内容などに対して議長がどう思っているかだったりとか、どういう理由でこういった発言をしたかというのをコメントしていただくということによろしいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

一つ一つの新聞記事に云々というよりは、新聞報道という大枠に対して、こういう思いでこういう行動をしたぐらいのボリューム感というか。

○事務局書記（増田奈菜子君）

もちろん一つ一つではないんですけれども、どういう思いでこういうことを言ったのだよというところも含めて、報道に対して自分がどう思っているかというか。

○（石山和生君）

どう思っているか。どういう思いを持ってこうしたかくらいで、釈明みたいになっちゃうと、またちょっと違うような。不毛な感じもするので、議長としての思いみたいなのをちゃんと載せられるページをしっかりとつくって、ページの内容は逆に、お任せしてもいいかもしれない。1ページあげますので、まずは出してもらって、それを編集するでもいいと思いますし。

ちゃんとフォローしないと。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

先ほど、自分のイメージは、経緯があって、その人に、議長のコメント、この前の市民への思い、これからの議会の活動の思いを伝えられる紙面でいいのかなとは思いますが、要は1ページもざっと説明文を書けと言っちゃうと、ちょっと議長もおいしいことになってしまうかなというのはあるので、とにかく市民に向けたコメントはやるよというところで、どこまでのボリュームなのか。なってくるのか。

○事務局書記（増田奈菜子君）

こちらとして依頼をしなければいけないので、何に対してというふうにやっぱり言わないと、議長も何を書いていいのかとなってしまうので、私もごめんなさい、聞かせていただいたんですけれども。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ここは市民に対して。

○事務局書記（増田奈菜子君）

市民に対しての議長の思い、報道提供等。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今回の一連の流れの中で。

○事務局書記（増田奈菜子君）

に関するものという括りで書いてもらえばいいという解釈でいいですか。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

はい。

○ **（石山和生君）**

思いと経緯ですね。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

分かりました。議長コメント、思いと経緯。それから、要望書、全協の内容、それから経過、この四つを入れるということで、ボリュームとしてどれぐらいほしいでしょうか、3ページで良いか。

○ **（石山和生君）**

思い、経緯、全協、要望書、3ページ。5ページあるんですよ、今ね。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

5ページあります。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

○ **（石山和生君）**

一旦それ以外の話でいったら、広報特別委員会の紹介、今後の抱負はほしいですよ。これは確実に欲しいですよ。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

常任委員会のね。

○ **（石山和生君）**

常任委員会じゃなくて、広報特別委員会の一番下の紹介、今後の抱負の1ページぐらいはほしいですよという。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

自分の中で、常任委員会の調査事項、これは上がってくれば、確実に載せるものだと自分は。

○ **（石山和生君）**

ちょっと待ってください。常任委員会のものも、ただこれ、1月中旬までに決まるのかどうか不明ですよ。不安定だと。それは一旦いいんですけど。

いいや、すみません。すみません、委員長、進めてください。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

常任委員会の調査事項、これはこれからの議会の大切な役割のところになってくるので、これは載せたほうがいいと思っているんですけど、今回、広報特別委員会、ちなみに紹介、これ初めてのあれじゃない、ですよ。今回今まで、新しい改選があった。

○ **（石山和生君）**

メンバーとか載せたりとか。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

前回かけはしで、一応、全議員のあれはばんと出ているじゃないですか。臨時号。臨時号が出ているので、この辺の紹介の部分はちょっと、常任委員会のほうと、今回の一連の市民へのコメントの部分を重要視して、こっち側のほうは入られるようならというところ

で考えているんですけれども。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕も常任委員会のものでいいと思うんですが、1月中旬までに果たして決まるのかというのが、結構決まらないんじゃないかと思っているんですけれど。

今だって、たしか、両委員会、今テーマ出しですよ。ここから多分テーマが、いやこれは違うとかと言い始めたら、多分僕、これ決まらないと思うんですよ。決まらなくなると、2ページ、1ページなのか分からないけど、決まらなかった場合どうするのかは、ちょっと。決まったら入れればいいですけど、決まらなかった場合どうするのかも考えたほうがいいのかなと思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それでは、もし常任委員会で決まらないようだったら、この広報特別委員会の紹介なり、議員の紹介なり充てていくという形でよいのかなと思うんですけど、皆さんいかがでしょうか。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

ごめんなさい、内容としては、今回の台風15号のことに比重を置いてもいいのかなという気はしますので、常任委員会に関しては、石山委員と同じで、決まらないのであれば、最初から竜巻災害に対しての情報というのを主に載せたらいいんじゃないかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

恐らくですけど、3ページから4ページですよ。残り2ページは、やっぱり何かしら掲載しなければいけなくて、5ページあるので。

さっきの話だと、アンケートは取りたいという話なので、アンケートと、広報特別委員会の抱負。何でアンケートを取るのか。それはリニューアルをしようと考えているから取るわけですよ。なので、そこら辺の意図とか、ちょっと変えていきたいんだみたいな、それは別に委員会としての何かを出すのは変じゃないと思うので、それとそれで1ページは取ってもいいのかなと思うと、あと1ページ足りないんですよ。

議員紹介というものは、さすがに前回、かけはしのもので出ているとなると。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

議員紹介の部分なんですけど、8月に島田市で議員さんの改選がありまして、そのときに見開き2ページで新人議員になった方の顔写真を掲載すると同時に、改めて何で議員になったのかというコメントを掲載した記事があったので、それを参考に新人議員の方に対してそれをやるか、もしくは2回目の2期生の皆様であったりとか、議員の顔が見えるような特集記事と思ってこの項目を入れたので、無理にではないですが、そういうやり方もありますよと。

なので、前回だけにとどまらない、議員さん個人の顔を見てもらうような記事をつくってもいいのかなと思って、掲載をさせていただいた形になります。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

非常にすごい、いい案だと思うんですよ。ただ、今回こういう災害の、先ほど篠崎委員が言われたとおりに、ちょっと思いというか、本当に市民の不安を払拭する、何とかしなきゃいけないという、そういうところでしっかりとした広報をしていきたいということで、その部分をウェイトに、災害のほうのことに關したことの要望書を含めて、そっちを重視していきたいというところにいるんですけど。

副委員長。

○（石山和生君）

なので、そこは厚みを持たせた上で、ページがまだ足りていなさそうなので、常任委員会が駄目だった場合は委員紹介を入れるのかどうかという話なのかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今、副委員長が言われたとおり、今の形でよいかと思うんですけど、どうでしょう。

○（石山和生君）

あと1ページなので、議員紹介は、これは島田のものは見開きと言っていたと思うんですが、今、粹的にはあと1ページしかないと思うんですけど、全員1ページで16いけますか、スペース的に。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

先ほどの災害に関する記事を3ページか4ページにするかによって違うんですけども、今、3で考えたときに、常任委員会の調査事項が1ページで収まると思うんですね。

○（石山和生君）

それも一旦ない場合は。

○事務局書記（増田奈菜子君）

例えば、これで3ページ、常任委員会がない。広報特別委員会のページで1ページ。この1ページのうち、どれぐらいか分かりませんが、私が想定しているのは、この部分にアンケート、このA4の半分ないし3分の1ぐらいにアンケートで、その上に皆様のお写真を載せさせていただいて、こういう広報にしていきたいですという抱負とともに載せるの1ページというのを考えています。これで4ページ。

○（石山和生君）

議員紹介は1ページしかないんですね。

○事務局書記（増田奈菜子君）

その1ページに対して、新人議員という枠でやるのもオーケーですし。

○（石山和生君）

やるとしても全員はちょっと厳しそうですね。

○事務局書記（増田奈菜子君）

そうですね、2回に分けて紹介するという方法もあるかなと。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

正直、僕は分けてもいいタイプなんですけど、よくあるのは、公平性が何だとかというのは、もしかしたら誰かに突っ込まれる可能性はありますが。なので、今回は新人だけど、次回は2、3期だよというくりに。また人数が、新人が5人でしたっけ、6人でしたっけ。5人ですよ。

鈴木委員は新人じゃないかな。それで6人か。6人、7人。新人ではないですよ、鈴木委員さんは。

○事務局書記（増田奈菜子君）

新しくなった人を紹介するので。

○（石山和生君）

そういうこと。

○（菅沼保弘君）

前回、あれだよ、新人議員のやつ出しているんでしょう。

○事務局書記（増田奈菜子君）

前回号には全員の氏名や写真が載っています。

○（石山和生君）

全体の、一番最初の全協か何かで一言コメントを、本当に一言書いたもの程度ですよ。なので、それのもうちょっと深いものがあつたらいいんじゃないかという趣旨なのかなと思うんですけど、全員やったらこの前と一緒に一言程度にしかならないから、どうですか。

僕は、やってもいいかなとか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

新人からはおこがましいので、もしよければ委員長さんとかからでもありかなと思います。

○事務局書記（増田奈菜子君）

委員長については、その前のページで委員長、副委員長の所信表明ってあると思うんですよ。ここで大きくコメントが載ります。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

ちょっとクリティカルな意見で批判も多分あると思うんですけど、公平性というのは完全に置いておいて、そういうふうに、書くことが少なくなってしまうという懸念があるので、今後、定期的に、1号につき一議員特集みたいな形でやっていったらば、一人一人の議員の理解が深まるので、いいのではないかなという考えもあるかなと思いました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕もそれ考えたことあったんですけど、難しい点は、まず選挙前になる人が強くなるみたいなの、そういうのが出てきがちなの議論で、なかなか皆さんから同意を得るのが難しそうというところがあるという点と。

なので、ただ、すみません、これ僕のリニューアルの分の最後のほうにも入っていたんですけど、リニューアル案の。各号に議員の連絡先は分かるようにしたほうがいいよねというのは、僕ずっと前から思っていたんですけど。深掘りというよりは、自分の得意分野とか、農業とか、分からないですけどそういうのがあれば、自分が農業関係で聞きたいと思ったときに、農業を得意にしていると言っている議員さんいる、じゃあそこに相談しようみたいな、この市民の方が見たときにぱっと連絡ができるようなものは必要だなと思っていて、それを各ページの一番下にでも毎掲載せたらいいんじゃないかみたいな話、それはリニューアルで話せばいいんですけど、そういったこと。

1人1ページは厳しいんじゃないかな、どうかなという。やったらいいなと僕も思いましたけど。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

私もその連絡というのは本当大事だと思うので、議会だよりだからこそ、すぐに電話してくださいみたいな、そういう気楽な感じで要望を上げていただけるようなページというのは、どこかで必ずいつも入れておいたらいいなとは思っているんですけど、すみません、内容が。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

深い話になって恐縮なんですけど、僕がリニューアルしたときにやりたいと思っているのは、毎回1ページ全部議員紹介となっちゃうと、批判をこの前されたので、それであれば毎回のページの、この下のページの部分の上のところにこういう小さい一人一人のそういうものが2行程度でびっぴとあって、16ページ以上は毎回あるので、見れるみたいな形にすればいいなと思っていたんですよ。

なのでその特集記事、毎回貼る記事を先に今回聞いてしまって、16人集めておいて、それをまた随時転記する。だから、取りあえずここで集めておけば、16人分集めておけば、あとはそれを貼っておくだけでできる。

なので、16人分の前回ほどのコメントの長さではないけど、二、三行程度のコメントを16人分もらうというのはありかな、どうかな。得意分野とか。住まい、もちろん住所までは言われなくても、住まいとか。そういうのを載せるページを1個つくったらいいかなと思いました、今。

ただ、リニューアルの前の話なので、そこまでやるかどうかはちょっと皆さんの意見がありますので。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そのほか何か。

ちょっと自分から。さっきのはいい案だな。確かにそういうのはありなのかなとは思

のだけれども、一議員さんの電話番号を載せてしまうというのは、すごい危険なところもあるんで、すごくいろんな個人攻撃とか、そういうのはない、牧之原市民にはそういう方はないと思っているんですけども、そういうことの危惧。

○（石山和生君）

任意でいいと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

載せたい人は載せるという形で。

○（石山和生君）

ちょっとこれ深い話になっちゃうので、やっぱりやめましょう。リニューアルのときに話しましょう。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

今ちょっと考えてみたんですけども、議員紹介で1ページつくるとした場合に何人載るかについてなんですけど、最大で五、六人かなと思っています。

というのも、1ページ目にある委員長・副委員長の所信表明、これ5名なんですね、全員で。議長・副議長が大きく取ってあるので、大体6名ぐらいであれば、自分の所信表明みたいなものを大きく載せられるのかなというイメージでいます。

なので、新人だったらぴったり6名になります。そうじゃない場合は誰か6名ピックアップして載せていただければ、きれいに1ページに収まるであろうことが予想されます。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今回、新人の、自分たち残っている方で2期生、3期生の方があるので、自分は載せてもいいかな。ページの構成というか、それだけ取ればというか、1ページあれば載せてもいいと思いますが、そこら辺は皆さんよろしいですか。要は新人の議員紹介。

なので、今回は新人なんだけど、次の回は2期生、3期生。

○（石山和生君）

さっきの話だと、ハレーション起こさないように上からやったらどうかという意見がありましたけど。

○事務局書記（中田 綾君）

何回に分けるか。

○（石山和生君）

3回ですよ、特集ページがない月は。

○事務局書記（中田 綾君）

特集ページがない場合があったときに、1回飛ばされるので。3回ぐらいだったら、1年か1年と1回ぐらいですすがに終わるかなとは思いますが、もしかしたら特集ページがないときに一部飛んでしまう可能性があるかと。

○（石山和生君）

上でストップかけられそうだよ。

○事務局書記（増田奈菜子君）

なので、新人議員さんのみで終わりにするか。

○（石山和生君）

それは多分言われると思う。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

新人さんの、今回は6人なんですけど、次の特集ページの関係もあるかもしれませんが、そのときは2期生、3期生はどんと全部載せてしまう、2回で。

新人の衆が6人どんと載るじゃんね。その次は2期生、3期生はちょっと顔とかコメントが少なくなるんだけど、どんと。

○（石山和生君）

上が許可してくれればいいんですけど。

○事務局書記（増田奈菜子君）

あとやっぱり、そのときの特集ページが多いか少ないかによると思います。特に次号の2月。当初予算の連合審査会でかなりページがタイト、かつかつになる可能性が高いです。その中で見開き2ページが取れるかどうかちょっと分からないところがあります。

○（石山和生君）

今の委員長が言っているのは1回目の話。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

2回目。

○（石山和生君）

見開きじゃなくて、1ページ、1ページの話だと思いますけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

次号。要は今回の2月号、81号は新人さんがどんと出て、それでその次の5月号のときに、今度は2期生、3期生の。

○事務局書記（増田奈菜子君）

ものが、この1ページ。

なので、ちょっと2期生、3期生のほうがページの的に。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

小さくなっちゃうけど。各委員長さんたちは所信表明で顔写真が載っているし。

○（石山和生君）

委員長は委員長としてのコメントをしているのであって、議員としての所属する何かに対してコメントしているのであって、多分そういう意見が出ると思います。僕の経験上。なので。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

すみません、今おっしゃっていたこと、ちょっと話の方向性が変わってしまうかもなんですけど、また。議員の紹介とかだと、平等性とか割り振りでやっぱり答えが出ないと思うので、もう少し柔らかい記事とかでもいいのかなと思ってはいるんですね。

○（石山和生君）

そもそもの議論の余地が。

○（中山尚大君）

そこにちょっと話が突き進み過ぎちゃうので、例えば、議場紹介だとか、あと市民の方と話していると、二元代表制というのはどういう仕組みか伝わってなかったりとかもするので、そういう簡単な解説みたいな、そういうのでもいいんじゃないかなとは思いました。

そうしたら、文字数とかも調整できますし、いつでも空いているときにぱっと入れられるので、というのが私の意見です。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今のいろんな案が出ているんだけど、例えば今、二元代表制は市民の方はまだ分かっていないとかあるけど、これ結構、議会だよりも載ってくるんですよ。そういうときには解説用語で結構それ載せるので、そういうところの用語、細かいものとかをばんと1ページ使ってしまうというのは、すごくもったいないと思うんです。

副委員長。

○（石山和生君）

すみません、これもまたいまさらの話なんですけど、前回私が言っていた、議運としての計画みたいなものを載せるページって、今のところここにはないんだったら、それを使ったほうがいいかなとは思ったんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

議運は議運でいいと思うんですが、ただ、それって決定事項ではないので、全協に流してそこで全員の総意とかそういうのがあってのあれなので、そこはちょっと議運からというのは。

○（石山和生君）

まだ修正段階だからということですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

難しいかなというところです。

中山委員。

○（中山尚大君）

さっきの二元代表制の説明はちょっといいのかなというご意見があったんですけど、私が言いたいのは、例えば、二元代表制の説明はあくまで例の一つで、単純に記事の方向性としてもっと柔らかいもので、例えば本会議中の議員の一日の過ごし方とか、そういうのでもいいのかなというのが、私の意見ではあります。

○（石山和生君）

あれ、勉強会は。研修会がありますよね。

○事務局書記（中田 綾君）

勉強会は1月15日とか16日辺りなので。19日に4回目の委員会が。急げば4回目、5回目には間に合うと思うので。

○（石山和生君）

たしか2日に分けてやるって言っていましたよね。たしかあったと思う。それをまとめてぼんでもいいような気がしてきました、その1ページ分は。よくやっていますよね。こういう研修会。

基本的には、やったら記事にするという流れだったと思うので、もし今1ページ議論の余地があるようだったら、それは悪くないかとも思いました。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

ちょっと整理すると、まずは常任委員会の調査事項がない場合は、要望書、台風15号災害に関するその部分が3ページ。その次にアンケート。

事務局。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

皆様のご意見を参考にしまして、全員協議会プラス要望書でおよそ3ページ、常任委員会の調査事項についてで1ページ。ただ、これが間に合わなかった場合は、1月15日、16日に行う議員研修会の記事。最後の5ページ目、こちらに広報特別委員会の紹介と今後の抱負というのを書きつつ、アンケートを入れるという形でよろしいですか。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

どうでしょう。

○ **（石山和生君）**

どっちかという、中山委員の案と研修のものがどっちがいいかくらいだと思う。

○ **（中山尚大君）**

でも、今まで研修を載せられていたなら、それでいいのかなと思うので。

○ **（石山和生君）**

中山委員がそう言うのだったら、皆さんがいいんだったら。

○ **（中山尚大君）**

皆さんがどういう考えかちょっと分からないので。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

それでは経緯を言いますが、先ほど事務局が言ったんだけど、要はやってきたこと、こういう研修をしていますよという、議会はこういう研修をしていますよという、ある意味、報告なんですよ。なので、これはなるべく載せないといけないという。載らないときもあるんですけども。大概どこかで載せてきているけど。

なので、そういうのを踏まえた上での話で、どっちにするかなというところで。

篠崎委員。

○ **（篠崎朗子君）**

研修もいいと思うんですけど、本当に中学生とかでも読んでもらいたいという方針で進めているのであれば、言語解説だけじゃなくて、中山委員のご意見をもっと拡張して、中学生の授業みたいな、ちょっと楽しい記事というか、こういう言葉ってこういうときに使われるんですよとか、もっと身近に感じていただけるような、言語を紹介していく。傍聴に来てもらえるようにするというような、お勉強のところを準備してもいいかなと思いました。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

○ **（石山和生君）**

そういうのをシリーズ化してやっていくのはありだと思うんです。最初のコンセプトで言ったら、今までどおりをまずやってみましょうと。今言っていたような改善はリニューアルのほうで、ちょっと多分議論が深まる必要があるようなものだと思うので、一旦、研修のものをやってみて駄目だったら、こんな研修の記事要らん、要らんとまでは言わない

にしても、それよりもこっちのほうがいいとかという議論を、まさにリニューアルするときにしっかりとしたらどうかと、今思いました。どうでしょうか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

本当に、自分はいろんな意見を聞いた中で、すごくいい意見だし、本当に親しみやすい感じの広報紙になっていくのかなというイメージ。ただ、やっぱりそこはしっかり、我々がこれから積み重ねて議論を交わして行って、いい形に持っていければと思います。本当にいい意見ありがとうございます。これからもどんどん言っていただければと思いますので。

一応それでは事務局、そういう形で、先ほど事務局から言われた、再度、もう一回。

○事務局書記（増田奈菜子君）

すみません、最後の確認となりますが、特集記事についてはおよそ3ページ分で、全員協議会と要望書。

この要望書の内容については、要望書で約1ページか、ちょっと調整しますが、載せる内容は要望書の内容、全協の流れ、そして9月5日からの発災から今までに至るまでの経緯と議長からのコメント。これに対しては、報道に対しての議長の思いであったりとか、そういったものを載せていただくということによろしいですか。これで3ページ。

4ページ目に、常任委員会の調査事項について。調査事項がない場合については、1月15日、16日に行われる議員研修の内容を載せさせていただきます。

最後に5ページ目、こちらに広報特別委員会の今後の抱負、そして紹介とアンケートをさせていただきますということによろしいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

皆さんどうでしょう。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今回そういう形でやっていきます。構成のほうはそういう形になります。

（2）のかけはしのアンケートについて、いろいろ意見出た、ここの部分になるのかなという。前回、篠崎委員からアンケートについての、やったらどうだということで、ちょっと具体的に。自分もアンケートを、要は目的というのは、やっぱり市民に分かりやすく親しみやすく、役立つ。また、そして手に取ってもらって読んでいただきたいという、そういうところが目的になるのかなと思います。

なので、ただ、表紙とかデザインとか、そういうところの部分の設問とか、そういうのも含めてアンケートという捉え方でいいですか。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

もちろん表紙というところもあるんですけども、自由に書けるところはもちろんつくっていただくのと、あと、どんな記事が好きとか、どういうところをいつも読んでいますかとか、そういう感じで、市民の方々の読まれている比重を調査することで載せていくような方向性とかというのが、より分かるのかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そうなってくると、それはすごくいいことだと思うし、これからの広報紙にすごく反映

できると思うし、もっとリニューアルにもつながっていくと思うし、リニューアル、この間6月に紙面のほうを考えていくという、実行していくという感覚でいるんですけど、その前にアンケートを取ったほうが良いとって、ですよ。

なので、このアンケートちょっと、自分も、また正副、いろんな意見を、どういうアンケートがほしいというのがほしいので、そこの取りまとめという部分、たくさんアンケートってできない、大概やっぱり二、三ぐらい、もうちょっと五、六。マル・バツの関係のものが5件ぐらいで、あとは自由な、自由というか、例えば要望、こうだったら読むと思う点はどうですかとか、議会からもっと伝えてほしいものは何ですか。それはまだいろんな意見を出してもらった上で精査しながらやっていけばいいかなと思うんですけど、皆さん、どうでしょうか。

副委員長。

○（石山和生君）

アンケートはいつまでに、具体的に出来上がっていないとまずいですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

これは自分からの意見ですが、6月に紙面の全面、そこはある意味一つのリニューアルと自分は捉えているんですけど、それに当てがって、要は2月、この早いうちにアンケートを出してまとめて、それで今度の2月でアンケートの収集して、そこで今回のあれには間に合わせる。

○（石山和生君）

もちろん。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

間に合わせるので、そこでアンケートをやった後は、その後また広報委員会を臨時で開くパターンもあると思うので、そういうところで。

○（石山和生君）

なので、今後に間に合わせるには、いつまでに具体的に出来上がって。

○事務局書記（増田奈菜子君）

すみません、委員長。検討したんですが、1月7日までに委員長・副委員長のほうで仮案をつくっていただいて、それを7日の議会広報特別委員会で皆さんに1回見ていただく。その上で意見を出し合って、次回の19日の委員会までに大方完成させて、ここでそれでも直したいという部分があれば、最後の委員会、28日に予定される委員会で直したものを最後に見てもらおう。

URLを載せるだけであれば、そのURLの中身をちょっと変えても反映はできると思うんですかね。なので、ぎりぎりの28日でも最終変えることはできるんですけど、皆様に確認していただいてということ考えると、19日までには完成をさせたい。そのためにも、1月7日の委員会かどこかで仮のアンケートはつくりたいですかね。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

今の話だと、7日までに我々で素案をつくるという話になっているので、素案をつくるに当たってどういう、さっきおっしゃっていたような、今ちょっと大枠の、具体的なとい

うよりは大卒な意見を今いただければ、それを基に素案をつくりたいと思いますが、何かある方はいらっしゃいますか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

まずは自分からいいですか。ちょっと自分は簡単にアンケートを。

まず、年代。それとあと性別、各地区、そこはマル・バツのあれで。広報紙を読んでいるのか、どの程度読んでいるのか。要は見出ししか読まないよとかいう。これ、ちなみに各1軒回っているの、本当にぱっと表紙だけ見るのか、中もペラペラと、どの程度読んでいるのかとか。あと、今現在の広報紙をどう感じているのかという部分とか、あともっと興味がある、要は知りたい内容は何か、内容ですね。内容、どういうのを知りたいかだとか、あとは先ほど出た表現、デザイン、表紙について、どういうものがよいのかというのを、そういうところかな。

あとは、分かりにくい点があったらどうかとか、議会からもっと伝えてほしいことは何だという、そういうところを、自分はちょっと自分の中で考えさせてもらって、そういうのを織り込んでいけば。

またいろんな、あれなのでいろんな声を出してもらって、また取りまとめていければいいのかなとも思っています。

○事務局書記（増田奈菜子君）

聞きたい内容はデザイン、分かりにくい点、あと年代・性別などをマル・バツのチェック方式で書く。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

各地区もね。地域性というのはあると思うんですよ。相良地区のほうがたくさん子供が読んでいるよとか、やっぱり被災されたところのほうが読んでいるよとか、そういうちょっと地域性というのは確認しておきたいなというところで、マル・バツなので、大卒でいいので。もっと細かく、本当に区のほうが、そこら辺は校正すれば何とかかなと思うので。

要は個人情報のことも考えて。

○事務局書記（増田奈菜子君）

書かない範囲で、マル・バツで、相良地区、榛原地区とかで答える。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

もうちょっと細かくしてもいいかもと思うけど。

○事務局書記（増田奈菜子君）

あまり多過ぎると書いてもらえないので。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そうですね、そこら辺は先ほど言った、せいぜい多くても、8問から10問とか、ちょっと要望も書いていただくというところもあるので、あまりボリュームあり過ぎてしまうというのもちょっと。

副委員長。

○（石山和生君）

何かほかに、特に。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

どの記事をよく読まれているかという、興味があるかというところは知りたいなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

自分の中ではこれは、自分も市民ですけど、やっぱり一般質問は見たいなど。特に自分の地域から出ている人とか、興味がある支援者なり、そういう方は自分の。

あとは題目はあれですよ、空港のことだったりとか、海のことだったり、災害のことだったり、そういう興味があるところは、やっぱり一般質問が結構見られているんじゃないかなというところかなと思うんですけど。

ほかにも。これからここで、また少し考える暇というのか。

○事務局書記（増田奈菜子君）

なるべく、一応例として、今日の委員会に来る前にアンケートの内容をどうやるか、対象を誰にするかについて考えてきて話しましょうねとしてはいるんですけど、全員で決めるまでのことでもないんですが、正副委員長につくっていただくに当たって、大体ターゲットはどうするかとかは話していただきたいです。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そこで今挙げていただければ、中山委員も菅沼委員も鈴木委員、こういうことを聞きたいと思う、アンケートの項目として。

鈴木委員。

○（鈴木長馬君）

読まれることを前提に今話しているんですけども、読まれない例というのは、何かちよっとその辺も。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

大切なところだと思います。

○（中山尚大君）

逆説的に何で読んだんですかと質問すれば、そこに当てはまらない人は読んでいないのかなみたいな捉え方でいいのかなと、私は思う。

○（鈴木長馬君）

その辺が大切だと思うんですけどね。なぜ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

今の鈴木委員の意見に関連しまして、議会だよりだけではなくて、LINE、それからフェイスブック、ホームページ上でも、同じURLを公開してアンケートを取るということはできるので、読まれない理由もそうですけれども、読みたくなれない理由というのでしょうか、みたいなものをチェックした後に、こうしたら読みたくなるのに、みたいなことを書いてもらう。そういうこともできると思うんですね。もっとデザインをよくしてほしい、字を少なくしてほしい、などということはあると思うので、必ずしも読んでいない人はアンケートに答えてくれないというわけではなく、また、議会だよりに掲載するだけではないというのだけは、ご承知おきいただければなと思います。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

篠崎委員。

○ **（篠崎朗子君）**

それなら、どうしたら読みたくなりますかとかいう質問とか。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

今の鈴木委員と関連しているというか、そういうところをうまくアンケートができれば、副委員長。

○ **（石山和生君）**

前提としては、議会広報紙以外にも載るということで。アンケートのお題目は議会広報紙についてでいいですよ、議会についてじゃなくて。そうじゃないと許可とかが面倒くさい。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

事務局。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

議長に話をさせていただきまして、事前に。議会広報紙についてやる分には広報特別委員会のほうでやっていただいていいと許可をいただいたので、議会広報紙の中に限った範囲であれば、こちらで決めてやることについては問題ないかと思います。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

○ **（石山和生君）**

LINEで、議会だよりが出ましたって出るんでしたっけ。そのタイミングで。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

LINEは出ないんですが、やることもできます。

○ **（石山和生君）**

発行日に合わせないと厳しいような気がするけど。ちょっと確認。発行日じゃなくてもいいけど、分からないですけど、取りあえず、ちょっと。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

アンケートを行っていますというだけでもいいのかと。広報の内容については、LINEだったら日に実は4回タイミングがあって、9時、12時、3時、5時で。

○ **（石山和生君）**

その枠があるということですよ。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

その枠に載せられたら良いと思います。

○ **（石山和生君）**

ちょっと行政側がそういう、やってくれると思うけど、行政側がまずオーケーするのかどうかともちょっと聞いてみたいところです。

○ **事務局書記（増田奈菜子君）**

発行しなくてもいいですか、議会だよりを発行しましたをやってしまうと、毎回やらなければいけないような形になってしまうので、それを毎回やっていくか、それともアンケートに関してだけ、今アンケートをやっていますと出すということもできると思

うんですよ。

○（石山和生君）

だけど、毎回出してもいいレベルだとは思うけど。PDFで見れるんですよ、だって。

○事務局書記（増田奈菜子君）

そうです。ホームページでも見れます。

○（石山和生君）

毎回やってもいいレベルだとは。それもまたリニューアルのときに話したらいいと思います。ちょっと確認しておいてもらって。

いずれにせよ、議会広報に関するアンケートですよ。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それで、次の事項になってきてしまうんですけど、次号というか、要はアンケートを取った中で、その結果を公表してやるのが大切だと思うんですよ。こういう意見が出ました。私たちはそれを、しっかりそれに応えられるかどうかは分からないけど、それをこれからも邁進していくとか、前進していきます。その次の次号に、それは前もって言っておきたいんですけど、載せる方向で自分は考えていますので、よろしくお願いします。

そうすると、やっぱり市民も参加しているよという参加意識も高まってくるかなと思うし。

ほかはどうでしょうか。

今、いろいろアンケート出たので、そこら辺はまた一応ちょっと。

○事務局書記（増田奈菜子君）

抜けがないか確認させていただいてよろしいですか。

年代、性別、それから地区、およその。そして、知りたい内容は何ですか、デザインはどうしたらいいですか。分かりにくい点は何ですか、と、要望を自由に書くページ。どの記事をよく読んでいるか。また、読まれない理由というのでしょうか、もしくはどのくらい読んでいますか。毎回読んでいる、そんなに読んでいない、みたいな頻度を聞いた後に、その頻度の理由は何ですかという記事でもいいんですけども、を載せる。鈴木委員さんが言っただけじゃなかった、読まれない理由を聞くというのが今出た、およそ九つくらいかなと思うんですけど、ひとまずこの九つで考えてよろしいですか。

○（石山和生君）

それを話して、7日という話ですよ。それでいいと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

一応、アンケートの結果の件に関してはこれで。

そのほかという。手が挙がりましたね、そのほか。

○（中山尚大君）

いや、そのほかじゃなくて、アンケートに関してなんですけれども、本当にこれ、今おっしゃったことで私も同意していて、いいと思うんですけども、それと同時に懸念点の一つとして、そういうふうにアンケート項目が長いと、回答してくれる人が少ないんじゃないかなという気がしてしまっていて、もっとアンケートをすごいシンプルに、かけはしについてどうですか、みたいに1問だけ出して、そこに集まった意見をこちらで集計してやるというやり方もあるのかなと思いました。そのほうが多分、回答率とか回答数は上がる

とは思いました。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員、自分からですけれども、今回新しく改選になって、早くやりたい、そしてこれからのリニューアルに向かいたい。確かに今、中山委員の、どんという。それだけだとすごくもったいないし、もっと意見をもらいたいという、そういうところでね。それで、それをやってしまうと、また集計してまたやらないといけなくなってしまうと、すごい先々になってしまって、スピード感に欠けてしまうかなというところがあるので。

なので、今回はこういう形で進めさせていただきたいと思っているんですが、いかがでしょう。

○（中山尚大君）

じゃあ、おっしゃる方向でお願いします。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

今回の回答率が、面倒という理由で回答率が少ないのであれば、中山委員の今度、アンケートを採用するというのでいいと思います。

○（中山尚大君）

具体的に何人回答があったのかをきちんと明確にして共有していただけるとありがたいと思います。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

なので、今の意見もあるのでバランス見て、たくさんボリューム感満点過ぎないようにというのは、意見としてしっかり受け入れてもらって。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そこは十分に取り入れて作成していきます。

アンケートのことのほうはいいですかね。

〔「なし」と言う者あり〕

3 その他

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そのほか、何かございますでしょうか。

中山委員。

○（中山尚大君）

リニューアルで、先ほど私が伝えたような、もうちょっと読みやすいような記事。例えば中学生とか高校生が興味を持っていただけるような記事を何か特集としてつくるのはいいのかなと思いました。極端な話、例えば漫画とか載せちゃってもいいと思うので、私は。そういう、硬いなというイメージを少しでも変えられるような方向性に持っていくといいなと思います。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

ありがとうございます。また今後、そういう話で、いきなりぼんとなかなかできないので、構成している中で、リニューアルに向かって、そういう意見も取り入れながら、今後、検討して前向きに捉えていければいいかなと思います。

ほかにはどうでしょうか。よろしいですかね。

事務局、何か。

そのほか。中山委員。

○（中山尚大君）

もっと大きな話になりますけど、概要で発行部数、今現在1万4,000部とされていらっしやって、予算が約300万円ぐらいかけていらっしやるということで、私、これが適正なのかなというのは結構疑問に感じている部分がありまして、きちんとこの1万4,000部が適正なのか、来年から1万3,700部になるということで、現代ってこういう紙の紙面で読む方もいますけれども、やっぱりオンラインで見るとかも多いので、ここを大きく削れば印刷費も削れて、やはり予算の削減になると思うので、ここは検討の余地はあるのかなとは感じました。

例えば今、発信で書面でやっていらっしやると同時に、ホームページとフェイスブックでやっていらっしやるという現状だと思うんですけども、ここ今、SNSだとインスタグラムもかなり主要なので、インスタでやると、またさらに見ていただく方も増えるので、そこで増えれば印刷する部数を減らすことで、印刷費を減らしても問題ないのではないかなという気持ちは、私はあります。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

私もそれは賛成なんですけど、全戸配布で区会で多分配布されるので、その中で、どなたが紙面でどなたがというところが解消できればと思うので、その解消できる方法を考えていけばいいんじゃないかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

私も今、区会とかで配られていらっしやるということで、ほかにも市役所とかでも置いていらっしやるということなんですけど、印刷した部数がどの程度はけているのかとか、そういったところのフォローアップをきちんとして、本当に1万3,700部ですか、来年からは。これが本当に適正なのかは、きちんと精査する必要があるかなとは思っています。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

今ってどんな感じなんですか。1万部印刷したものは、全て手元に残っているみたいなことはないという状況ですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局。

○事務局書記（増田奈菜子君）

現在、手元に余っており、そこから逆算して適正として数値を出したのが1万3,700部という形になっています。

○（石山和生君）

現状は残ってないんですか。

○事務局書記（増田奈菜子君）

現状残っています。300部ぐらい残っちゃっているのです。

○（石山和生君）

だから、減らしたと。

○事務局書記（増田奈菜子君）

そうです。それで、1万3,700部という数字。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そういう意見がありますけど、非常に難しい、全戸配布されている中であるので、部数的なものは、なかなか減らすとか。ただ、ペーパーレスの時代になってきているということは確かなので、その辺はまた今後の検討になっていくのかなと思います。

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

それこそアンケートに入れればいいんじゃないですか。紙媒体がいいのか、ホームページとかネット配信がいいのかということもチェック入れていただいて、もしネット配信がというところの人数が多ければ、本当に大変な作業になると思うんですけど、その部分はちょっとやっていってもいいかなと思います。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

菅沼委員。

○（菅沼保弘君）

その点で言うと、全戸配布の意味というのは、老人がまずSNSとかそういうの見ない。携帯もガラケーが多いぐらい。その人たちが、どれだけその情報を得るかというのは難しいところで。ただ、配布しても見るか見ないか分からない。

だから、ちょうど境目の世代だと思っていたんですけど。だからもうちょっと、もう10年、20年たてば、ほとんど今の若い人たち、年寄りの初老のタイプが老人になってくるので、私も含めて。だからそこがちょうど境目なので、もうちょっと時間を置いたほうがいいかなとは思っているんですけど。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

僕も、まだ全戸配布は続けるべきだと思いますが、今言っていた全戸配布以外のところが、渡しているは渡しているけど、そこでめっちゃ捨てられている可能性もあるわけで、そっちを調査するのはいいと思いますね。

なので、どのぐらい余っちゃっていますみたいな。結構ありますよね。全戸配布以外で配っているのも。

○事務局書記（増田奈菜子君）

それが余っていたのが大体300部ぐらい。

○（石山和生君）

返ってきたということですか。

○事務局書記（増田奈菜子君）

返ってきたものを私のほうで計算しまして。

○（石山和生君）

配っていないのが300部じゃなくて、余っちゃって返ってきているのが300部。

○事務局書記（増田奈菜子君）

余ってきたのを回収して数字をつけていたんですね。今回、予算を算定するに当たって調べた結果、各施設のものを回収して、余りが大体300部ぐらい。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

そうなると、全然はけているということになるということですかね。

○事務局書記（増田奈菜子君）

全戸配布しているのが一番大きいですが。

○（石山和生君）

全戸配布がどのぐらいあるんでしたっけ、さっき1万4,000部と言っていましたけど。

○事務局書記（増田奈菜子君）

事務局にそもそも配布されるのは四百十何部ぐらいなんですね、たしか。全戸配布の余りが事務局に来る。事務局に来るようになっていて、それが400部ぐらい。

○（石山和生君）

全戸配布の余りが400部しかないということですか、今。なるほど。

となると、減らす、減らさないは、全戸配布をするのかしないのかという議論になってくるという話で。

○事務局書記（中田 綾君）

紙でほしい方が現状いるということなので、その方に向ける手段が今のところ全戸配布しかないので、そこを減らしてしまうと、紙でほしい方の手元にどうやって届けるという、今のところ手段が全戸配布しかないのです。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

ちなみに、うちの広報紙の予算はめちゃめちゃ安いんです。なぜなら、地区、自治会協議会がちゃんと稼働していて、ちゃんと渡せば、普通大きめの自治体では、郵送費をめちゃめちゃ払っていて、物すごい金額なんですね。なので逆に、こうやって全戸配布できるのが300万円と言いましたっけ、何万円と言いましたっけ、さっき。300万円ぐらいで全員にちゃんと通知できているというのは、コスト的には悪い分類には入らないかなとは、個人的には思いますね。

本来だったら郵送費も払うところを、自治会の皆さんのおかげで無料で配れているということを見ると、全体の経費から見たら、高い分類にはならないんじゃないかな、どうかなというふうには思います。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

○ **（中山尚大君）**

自治体から各家庭の配り方で、そこをだから全員ではなくて、例えば町内会に置いておいて必要な方に渡すみたいなことをすれば、削ることは可能かなとは思いますが、それが市民のためなのかはちょっとまた分かりませんが。

○ **（鈴木長馬君）**

経費を削減するのでしたら、例えば、県議会だよりはタブロイド版でやっていますよ。新聞の。県議会だよりはそういうふうなやり方で出しているんですけど、そのような形にしても経費は削減できると思うんですね。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

副委員長。

○ **（石山和生君）**

多分それって折り込みか何か入れていますか。

○ **（鈴木長馬君）**

それも町内会とか、そういうのを通してやる。

○ **事務局書記（中田 綾君）**

そこは、我々で業者に見積りを取ってみないと分からない。

○ **（石山和生君）**

なので、ということは、我々がどれだけ情報載せたいかという話になる。コスト削減のために、情報を、今たくさんページ数ありますが、それをめっちゃ削ってもいいと、我々が判断するのであれば、あり得る話かとは思いますが、リニューアルしてどんどんさらに情報を増やしていこうみたいな方針でもあると思うので、取りあえず、議論はもっとしていいと思いますけど、そういうふうに思います。

今から削る方向に急速にというのは、難しいかなと、今の話を聞いていると思いました。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

中山委員。

○ **（中山尚大君）**

削る議論に関しては、ちょっと難しいということで、今後も引き続きやっていっていただければいいのかなと思ったんですけど、あとは情報発信について、本当に印刷で配布する以外にも、今ホームページのフェイスブックでやっていらっしゃるということだったと思うんですけど、それで見ている方も多分一定数いらっしゃって、さっきも言ったんですけど、今SNSの主流はインスタグラム、20代、30代、40代はインスタグラムがかなり主流なので、そちらのアカウントの運営は、事務局さんちょっと手間になっちゃうんですけど、させていただいてもいいのかなとは思いました。

○ **議会広報特別委員長（絹村智昭君）**

篠崎委員。

○ **（篠崎朗子君）**

私自身もそうなんですけれども、インスタで更新すればフェイスブック連動でいくので、そんなに、開設さえしてしまえば難しくはないんじゃないかなと思います。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

そうしたら今の意見は検討するんですけど、これは事務局側から見て負担とか、そういう。できることはできるとか、どう。金額のお金に関しても。今後の検討でいいんですけど。

事務局。

○ 事務局書記（増田奈菜子君）

今聞いている所感で言うと、広報そのものの体制についても変えたほうがいいのかというのがあったと思うんですね。これについても、実はアンケート取ったほうがいいんじゃないのかというのをちょっと思ったんですよ。なので、今回のアンケートにSNSの活用についても載せるかによって、アンケートの量とかも変わってくるんですけども、アンケートについては広報紙のみで今回絞ってしまっていていいですか。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

それも、さっき言ったかもしれないんですけど、SNSの発信方法に関してもアンケートに入れてしまったほうが、まとめてこちらで情報を得られるかなとは思っています。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今、同じあれだと思うんですよ。なので、それはそれで意見として、今度のアンケートにもまた精査してやっていきますので。

副委員長。

○（石山和生君）

今言っているSNSは、議会広報紙を出すときに、出しましたよと言っているSNSなのか、随時更新していく話なのか、どっち。随時だと結構大変だと思うので。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

篠崎委員。

○（篠崎朗子君）

インスタは毎日更新しないと本当に何も伸びていけないので、そういうところでいうと、毎日更新でなければフェイスブックオンリーのほうがいいのかとも思ったりします。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

議会だよりが出たタイミング、今フェイスブックで投稿しているようなタイミングでインスタに載せるだけだったら、そんなに手間はそこまで変わらないと思うので、いいと思うんですけど。

○ 事務局書記（増田奈菜子君）

ただ、現状更新頻度は月三回ぐらいです。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

中山委員。

○（中山尚大君）

そこは私も権限とかが分からないので確認の意味での発言しかできないんですけども、

市の外へのアウトプットって市長もされていらっしゃるし、市役所自体もされていらっしゃるし、そこで新しくアカウントつくるというのも、とっ散らかってしまうので、一つに統一化してしまってもいいのかなという気持ちはあるんですね。

ですので、議会だよりを出したらば、市役所全体、牧之原市全体のアカウントがあればそこにポストしていただく。市長へのアカウントにもポストを依頼するみたいな。

私も個人的にやっていますので、そういったSNSをやっている議員にもポストを依頼すると、そういうやり方をすれば、かなり拡散はするかなとは思いますが。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

副委員長。

○（石山和生君）

まず、僕も各議員に拡散をお願いするというのは、別にできることなのでやったらいいと思います。既に市議会のアカウントは、フェイスブックとかはありますよね。

多分、市のほうとがっちゃんこは。

○（中山尚大君）

拡散を依頼するとか、毎回。

○（石山和生君）

まずそれがLINEの話ですよ、LINEもそうですし、フェイスブック関係でもということですよ。

○（中山尚大君）

市長も依頼すれば、市長はかなり影響力が強いので、変わってくるのかなという気持ちはあります。権限が分からないので、ちょっとはっきりとは言えないんですけど。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

今、篠崎委員が言われたとおり、二元制というのがあって、行政とやっぱり議会とは、ある意味、自分たちはチェックするほうなのでという、そういうところなので、そこもまた広報と一緒にリンクしてやってしまうというのは、少し違うのかなというのを感じるころなので。

○（石山和生君）

市長個人だけは、ちょっと厳しいかもしれないですけど、ほかはいけるんじゃないですか。

○（中山尚大君）

議員に拡散をお願いするだけで違いますし、ほかにもSNSをやっている方はいらっしゃるんで、そういうところはやっていくと多分変わったりとかあるのかなとは思いますが。

○ 議会広報特別委員長（絹村智昭君）

各議員が個人個人で議会だよりなりを広報していくというのは構わない話なので、それはまた委員会から各議員さんに、お願いします、できる範囲で構わないのでという、そういう程度でいいのかなという。お願いベースで。

ほかには何か。

そのほか特にならなければ、ここで終わりますが。

中山委員。

○（中山尚大君）

すみません、これは別に不満とかではなく単純に確認なんですけど、1月7日に広報特別委員会が入っていて、これはスケジュールの確認なんですけど、ここにほかに協議会とか本会議とか入ってくる感じですか。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

事務局

○事務局書記（増田奈菜子君）

なるべく会議の日に合わせて、皆さんが二度手間にならないようにはしているんですが、どうしてもない期間はあるので、そのときには来ていただきます。

○（中山尚大君）

そういうことですね、理解いたしました。

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

では、よろしいですかね。

〔「なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（絹村智昭君）

それでは、以上をもちまして、議会広報特別委員会を終了します。お疲れさまでした。

〔午前 11時29分 閉会〕